

## 【第8章 章末問題解答】

1. 当社の販売する製品の販売価格及び原価に関する情報は以下の通りである。そこで、損益分岐点売上高を計算しなさい。

【販売価格・原価に関する情報】

製品1個あたりの売上高：@1,500 円

製品1個あたりの変動費：@700 円

固定費：1,200,000 円

(解答)

2,250,000 円

(解説)

損益分岐点売上高は、貢献利益で固定費をすべて回収できる時点の売上高を指します。そのため、以下のように計算できます。

- ・損益分岐点販売量の計算

$$1,200,000 \div (1,500 - 700) = 1,500 \text{ 個}$$

- ・損益分岐点売上高の計算

$$1,500 \text{ 個} \times 1,500 \text{ 円} = 2,250,000 \text{ 円}$$

2. 製品Aを製造する当社は、得意先から製品1,500個の追加注文の問い合わせを受けました。当社の工場は、年間10,000個の製品の製造が可能で、現在は8,500個（上記の問い合わせを含まない）の製造を行っている。以下の製品Aに関する情報を踏まえて、追加注文を引き受けるか判断してください。

【製品Aに関する情報】

製品1個あたりの売上高：@1,000 円

製品1個あたりの変動費：@800 円

固定費：100,000 円（下記を含まない）

作業員が不足しており、追加受注を受ける場合には人件費が追加で320,000円生じることになる。

(解答)

20,000 円不利であるため、引き受けるべきではない。

(解説)

本問では、余剰の生産能力を使って追加注文を引き受けることが可能であるため、注文を引き受けることで発生する収益及び費用を計算することで、意思決定を行えます。

- ・注文を引き受けることで発生する収益の計算

$$1,000 \text{ 円} \times 1,500 \text{ 個} = 1,500,000 \text{ 円}$$

- ・注文を引き受けることで発生する費用の計算

(変動費)

$$800 \text{ 円} \times 1,500 \text{ 個} = 1,200,000 \text{ 円}$$

(追加で生じる人件費)

320,000 円

(合計)

$1,200,000 \text{ 円} + 320,000 \text{ 円} = 1,520,000 \text{ 円}$

- ・ 利益への影響額の計算

$1,500,000 \text{ 円} - 1,520,000 \text{ 円} = \triangle 20,000 \text{ 円}$  (引き受けるべきではない)

3. 当社は、製品の製造に必要となる部品 2 万個を自社工場で製造し、利用しています。現在、この部品について外部に製造を依頼しようか検討しています。なお、自社工場で製造した場合と外注した場合の部品単価等の情報は以下の通りです。

【自社工場で製造した場合】

部品の製造単価：@1,300 円

【外注した場合】

部品の購入単価：@1,450 円

外注に切り替えることにより、製造設備に関する固定費 2,900,000 円が削減できる。

(解答)

100,000 円不利であるため、外注すべきでない。

(解説)

本問では、自社工場で製造した場合と外注した場合の費用を比較し、少ない方が有利ということになります。

- ・ 自社工場で製造した場合

$1,300 \text{ 円} \times 20,000 \text{ 個} = 26,000,000 \text{ 円}$

- ・ 外注した場合

$1,450 \text{ 円} \times 20,000 \text{ 個} - 2,900,000 \text{ 円} = 26,100,000 \text{ 円}$

- ・ 自社工場で製造した場合と外注した場合の比較

$26,000,000 - 26,100,000 = \triangle 100,000 \text{ 円}$  (外注の方が不利)